



不妊治療や HP 運営に興味がある方、必読!

今清水沙耶さん「Heart-Seed」経営

“All Will Be Mom”サイト <http://all-mom.babymilk.jp/>

ショップサイト <http://www.heart-seed.net/>

赤ちゃんショップ(グッズ、お洋服) <http://www.heart-seed.jp/>

■情報が欲しい、同じ立場の人と話したい、そんな気持ちから



▲沙耶さんのホームページ

沙耶さん自身、子どもが欲しい、不妊治療が始まったとき、「どんな病院に行けばいいの?」「どんな検査なのかな?」不安な気持ちと基礎的な質問でいっぱい。「でも、当時は初心者が気軽に書き込めるようなサイトは当時なかったんです」「どんなに仲の良い友達でも、治療未経験者には分かってもらえないものです。」これが、自分のHP(ホームページ)を立ち上げるきっかけになったとのこと。しかし、当時、沙耶さんはパソコン知識ゼロ!パソコン購入から始まったHP作り。専用ソフトをインストールすると、意外にも簡単なんです。試行錯誤を繰り返しながら2000年7月にサイトが立ち上がりました。

でも、問題は中身(コンテンツ)。初心者が気軽に参加できる掲示板(ホームページ上で匿名で意見を書き込んだり、意見に返事を返せるスペース)を作るため、治療の段階別にするという工夫をしました。「不妊」といっても、もう何年も治療している場合、初めてで何も分からない場合、二人目不妊、などケースはさまざま。治療中のデリケートな精神状態を考えると、話すカーを分けた方が、お互いに傷つくことがない、という配慮でした。

■顔の見えないホームページでの交流



共感を持った同じ悩みを持つ人が次々に掲示板に書き込みをしてきました。けれど、HPの匿名性は、中傷誹謗、いたずらの書き込みも促す原因にもなります。そういった書き込みは見つかったり、報告があったらすぐ削除、また、書き込みに対しては、丁寧に返事を返す、そういったこまめなHP運営が、多くの不安を抱えた女性が安心して集える場所を提供するに繋がるのです。

また、自らの治療日記(今でいう「ブログ」インターネット上の公開日記)を公開することで、閲覧者が具体的な治療や検査について参照できたり、経験談や知識から勉強できたりと、治療を始めようとするあるいは治療中の女性には、役立つだけでなく、「私だけじゃない」という心の支えになる、という効果もありました。

病院情報も、お役立ちページの一つ。実際に治療経験のある人からの口コミは、敷居の高い病院の入り口をくぐる前の重要な情報です。どんな病気でもそうだと思いますが、精神的なケアの大切な治療であるにもかかわらず、患者の扱いをぞんざいにする医者は後を絶ちません。「もう無理じゃない?」「そろそろあきらめたら?」そんなナイフのようなひと言に女性は涙を流し続けています。「XX先生は話を聞いてくれるよ」「〇〇病院は4時間以上待つから本を持って行ったほうがいいよ」なんていう情報はサイトならではの、全国的に交換可能です。

また、体外受精であれば、1回30~70万

円ぐらいは費用がかかりますが(不妊は自費治療)、失敗して何度も繰り返せば、日々の投薬、注射で女性の心身はぼろぼろになっていく…本当は医者とじっくりと相談しながら進めたいのですが、まだまだ良心的な病院は少ない、というのが現状。日々の辛さや不安を、匿名で、思い切り書き込めるインターネットの掲示板は、そんな女性達気持ちを受け止める格好の場なのかもしれません。

掲示板上で気があつたら、会って話したいと思うのは、人間として自然ですね。オンライン(インターネットでつながっている状態)ではなく、オフラインで会う「オフ会」とは、そうやって実際に顔を合わせて集おうというもの。日本各地から集まった同じ悩みを共有するコミュニティもできあがりました。みんな「このコミュニティから(一日も早く子どもを授かって)卒業」を目指すんですよ、と説明する沙耶さん。他のコミュニティとの大きな違いですね。

■そして、妊娠。 —杉並区へ、行政への期待



▲さやさん経営のショップHeart-Seed

沙耶さんの長い治療も終わりを告げ、無事に妊娠。かわいらしい女の子を出産し、別のHPで妊婦や赤ちゃん用品を取扱始めました。これからも、経験を生かして、HPやネット

↓

ショップ、そして阿佐ヶ谷のセレクトショップ「ハートシード」を経営していくそうです。最後に、「行政が少子化問題を本当に真剣に考えているのなら、不妊問題にももっと目を向けて欲しい」と沙耶さんは訴えます。高額な治療費は、家計を圧迫し、あるいは不妊治療への取り組みをあきらめさせる原因となっています。不妊ビジネスを営利的なチャンスと考える企業や病院さえあると聞きます。社会的、経済的、精神的なケアを、行政側から取り組んでいって欲しいものです。

(文：豊田のり子)